

家庭用品交換事業 「くるくるリサイクル広場」

リサイクル品の有効活用を図り、ごみの減量化を促進する事を目的に、智頭町では、『家庭で眠っている不用品を譲りたい』、『譲って欲しい』みなさんに利用していただく、『くるくるリサイクル広場』を設けました。情報交換の場としてご活用ください。



【登録方法】

譲りたい、譲って欲しい人は、税務住民課の窓口又は各地区公民館で、登録申込書に記入していただきます。

登録期間は2ヶ月間とします。(開始10月1日から)ホームページ、役場及び各地区公民館などに掲示します。(個人情報の部分は掲載しません。)

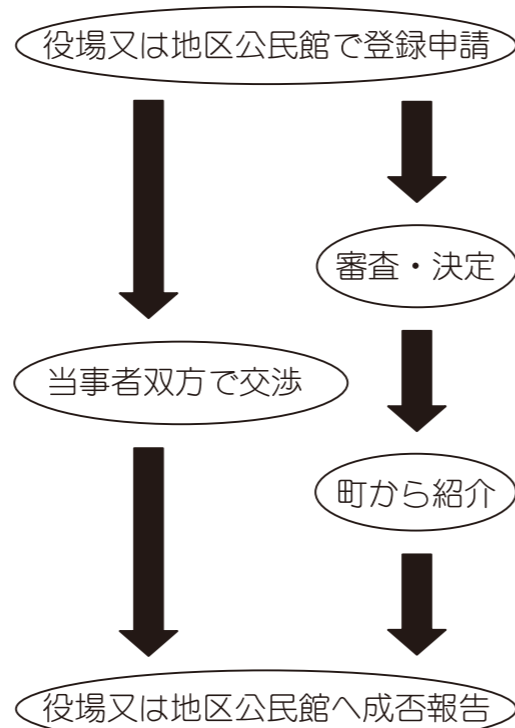
【登録できる品物】

- 電化製品(但し、テレビ・洗濯機・冷蔵庫・冷凍庫・エアコン・パソコンは除く)、ベビー用品、子供用品など生活用品に限ります。
- 化粧品、食べ物、薬品、金券類などは登録できません。
- 修理などせずに、現状のまま使用できる物に限ります。
- 営利目的の物、貴金属、美術品、骨董品、不動産、動植物、その他不適当と認められる物は申し込みできません。

注 意 事 項

- 利用者は智頭町に在住の人に限りです。
- 登録料、紹介料はいただきません。
- 現品は町ではお預かりいたしません。
- 問題が生じたときは、双方の話し合いで解決してください。
- 登録の時に、お断りすることもあります。

【利用の流れ】



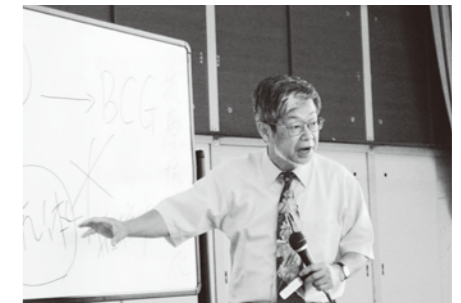
○譲って欲しい人に、譲りたい人の連絡先(電話番号)を教えますので、双方で話していただきます。(町は関与しません)

しつけの回復 教えることの復権

智頭町学力向上支援事業として、8月28日(金)総合センターで、生涯学習通信「風の便り」編集長の三浦清一郎氏による「しつけの回復 教えることの復権」と題した講演会を開催しました。約100人の参加者は、三浦先生の力強く明快なお話により、子育てのヒントをたくさんいただきました。次の日には、諏訪保育園の保護者へ幼児期の子育てについて話していただきました。4つの過剰を減らし、「体力」「耐性(我慢)」を高めていきましょう。

(三浦先生講演キーワード)

- ・子どもに我慢することを教えなければ人生の困難に立ち向かう力はつかない
- ・学力をつけるためには「集中」と「持続」が不可欠 → 「集中」と「持続」の大元は体力と耐性
- ・4つの保護過剰 保護(世話・指示・授与・受容) → 保護は今の半分くらいにしよう
- ・「生きる力」はまず体力から 体力 → 耐性(我慢) → 学力 → 社会性 → 共感
- ・辛さに耐えて丈夫に育てよ! → 辛さに耐えるトレーニングをする
- ・「子と親は対等ではない」ということを教えておく → 父母の方が上
- ・親元から子どもを離す(世間の風に当てる) → 最大の教育
- ・親の責務は「保護」と「教育」 → 日本の親は「保護」が中心
- ・教育の3原則
 - ・やったことのないことはできない
 - ・教わっていないと分からない
 - ・練習しなければ上手にはならない



(講演会参加者の感想)

- ・久しぶりに力強いお話を聞きました。生きるということを楽しみました。子どもの顔色を見ながら子育てするのではなく、4つの保護過剰にならないよう気をつけたいと思います。
- ・今まで、私が子どもにしていたことは4つの保護過剰でした。逆のことをしなければいけないということが分かりました。分かりやすいお話でした。
- ・今は(幼児期は)、体力と耐性を育てることが一番大事だと分かりました。与えすぎないで、我慢する心を育てられるように家で教えようと思います。
- ・基礎となるものが体力と言われ、「やはり」という思いがありました。体力がつくのと同時に耐性もついてくると私も感じました。子どもだけでなく、自分自身にも負荷をかけながら生活していきたいです。

サマースクールで 夏休みの宿題はばっちり



智頭町学力向上支援事業として、サマースクールを実施しました。ねらいは、智頭町内小学生の夏休みの宿題などの学習支援を行い、学力の定着や学習習慣の育成を図ることです。

夏休み期間中の5日間、8人の先生の指導により、約30人の小学生がひまわり会館で宿題など勉強をがんばりました。

子どもたちから、「夏休みの勉強が進んでよかった」「家で勉強をするより集中できた」などの感想が寄せられました。